

お茶とお華と・道を語る：対談

千、宗室：談：裏千家家元

吉田、裕信：談：仁和寺門跡

震災関連部分のみの抜粋です

譲り合う被災者に感動

震災の神戸、貴重な教訓

千 この度の大震災で、家族だけでなく隣近所でおにぎりやバナナなどを分けて食べておられるのをテレビなどで見ると胸が詰まりますが、日本人にはまだこういう気持が残っているのだ、よかったな、とも思います。被災された方は本当にお気の毒ですが、今回の震災を教訓として「もったいない」「ありがたい」という心が見直されるのではないのでしょうか。

吉田 自分一人が生かされているのではない。多くの人や物や自然に支えられ、おかげを受けて生かされていることを実感されたと思います。水にしろ電気、ガスにしろ何も不自由を感じずに暮らしていたのが、こういうことで、物を大切にしなければならないと思うようになるでしょう。若い方々は初めての経験だったと思います。

震災は不幸なことでしたが、人さまのことを思いやるというこの体験を、良い意味で今後の精神生活に役立てていただきたいと思います。

仁和寺の末寺も多大の被害を受けていますが、末寺だけでなく被災者にもできるだけのことをしたい。一刻も早い復興を願っております。

千 お茶の世界では、よく仕え合うことが仕合わせにつながると言います。「いかがですか」「お先に」と勧め合う、思い合うその気持が「仕え合う」ことなんです。

吉田 譲り合うことですね。手を合わせて合掌することは、右の手の皺と左の手の皺を合わせることから幸せ（皺合わせ）に通ずると言います（笑い）。